

平成27年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年5月20日  
上場取引所 東

上場会社名 株式会社サハダイヤモンド  
コード番号 9898 URL <http://www.sakha.co.jp/>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長  
問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役副社長  
定時株主総会開催予定日 平成27年6月25日  
配当支払開始予定日 —  
決算補足説明資料作成の有無 : 無  
決算説明会開催の有無 : 無

(氏名) 姜 杰  
(氏名) 井上 喜明  
TEL 03-3846-2061  
有価証券報告書提出予定日 平成27年6月29日

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期の連結業績(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(1) 連結経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期	3,232	△7.0	△128	—	△163	—	△187	—
26年3月期	3,477	16.5	△12	—	△63	—	△760	—

(注) 包括利益 27年3月期 △441百万円 (—%) 26年3月期 △94百万円 (—%)

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり 当期純利益	自己資本当期純利益 率	総資産経常利益率	売上高営業利益率
	円 銭	円 銭	%	%	%
27年3月期	△0.56	—	△11.1	△4.1	△4.0
26年3月期	△2.28	—	△33.5	△1.6	△0.3

(参考) 持分法投資損益 27年3月期 ー百万円 26年3月期 ー百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
27年3月期	4,005	2,519	38.0	4.57
26年3月期	4,081	2,960	45.7	5.60

(参考) 自己資本 27年3月期 1,523百万円 26年3月期 1,866百万円

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
27年3月期	△163	△0	△10	164
26年3月期	△341	△14	△15	335

2. 配当の状況

	年間配当金					配当金総額 (合計)	配当性向 (連結)	純資産配当 率(連結)
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計			
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	百万円	%	%
26年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—
27年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—
28年3月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00	—	—	—

3. 平成28年3月期の連結業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり当期 純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,580	10.7	30	—	18	—	△60	—	△0.18

当社は年次での業績管理を行っておりますので、第2四半期(累計)の連結業績予想の記載を省略しております。詳細は、添付資料P. 2「1. 経営成績・財政状態に関する分析(1)経営成績に関する分析」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
② ①以外の会計方針の変更 : 無  
③ 会計上の見積りの変更 : 無  
④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)  
② 期末自己株式数  
③ 期中平均株式数

27年3月期	333,172,137 株	26年3月期	333,172,137 株
27年3月期	28,449 株	26年3月期	26,009 株
27年3月期	333,144,828 株	26年3月期	333,147,551 株

(参考)個別業績の概要

平成27年3月期の個別業績(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(1) 個別経営成績

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期	27	72.1	△129	—	△57	—	△58	—
26年3月期	16	△27.3	△150	—	△69	—	△1,507	—

	1株当たり当期純利益	潜在株式調整後1株当たり当期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期	△0.17	—
26年3月期	△4.53	—

(2) 個別財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	百万円	百万円	百万円	%	円 銭	円 銭	
27年3月期	712	571	571	629	80.1	1.71	1.71	
26年3月期	784	629	629	629	80.3	1.89	1.89	

(参考) 自己資本 27年3月期 571百万円 26年3月期 629百万円

※ 監査手続の実施状況に関する表示

この決算短信は、金融商品取引法に基づく監査手続の対象外であり、この決算短信の開示時点において、財務諸表に対する監査手続が実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び注意事項等については、添付資料P.2「1. 経営成績・財政状態に関する分析(1) 経営成績に関する分析」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績・財政状態に関する分析 .....	2
(1) 経営成績に関する分析 .....	2
(2) 財政状態に関する分析 .....	3
(3) 継続企業の前提に関する重要事象等 .....	4
2. 経営方針 .....	5
(1) 会社の経営の基本方針 .....	5
(2) 目標とする経営指標 .....	5
(3) 中長期的な会社の経営戦略 .....	5
(4) 会社の対処すべき課題 .....	5
3. 会計基準の選択に関する基本的な考え方 .....	5
4. 連結財務諸表 .....	6
(1) 連結貸借対照表 .....	6
(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書 .....	8
連結損益計算書 .....	8
連結包括利益計算書 .....	9
(3) 連結株主資本等変動計算書 .....	10
(4) 連結キャッシュ・フロー計算書 .....	12
(5) 連結財務諸表に関する注記事項 .....	13
(継続企業の前提に関する注記) .....	13
(会計方針の変更) .....	13
(会計上の見積もりの変更) .....	13
(セグメント情報等) .....	14
(1株当たり情報) .....	18
(重要な後発事象) .....	18

## 1. 経営成績・財政状態に関する分析

### (1) 経営成績に関する分析

#### ①当期の成績

当連結会計年度におけるわが国経済は、政府による経済政策及び日本銀行の金融緩和策により、企業収益の向上や雇用情勢に回復の兆しが見られたものの、円安基調による輸入素材価格の高騰による個人消費の落ち込み懸念等、依然として厳しい経営環境が継続いたしました。

当社グループの属する宝飾業界においては消費マインドの改善が期待されております。

海外子会社維真珠宝（上海）有限公司は、イタリアブランドの「FRANCOELLI」をメインとした高額商品を揃え、第11号店まで店舗展開し、卸販売も行っておりますが店舗販売は伸び悩みました。

子会社株式会社バージンダイヤモンドが展開するダイヤモンド事業では、エンゲージリング及びマリッジリングをメインとした新サイト「VirginDiamond」及び楽天市場の「ザ・ベストサプライズ」のインターネット並びにバージンダイヤモンドショールーム等における販売を行っておりますが高額品販売が低迷いたしました。

海外子会社公開型株式会社サハダイヤモンド（ロシア）は、自社研磨による原石加工販売を行っており、概ね予想どおりに推移いたしました。

なお、不動産賃貸事業の業績は賢調に推移いたしました。

また、子会社株式会社サハダイヤモンド・トレーディングは、商社機能を持っており、各種商品を扱うことができます。

この結果、当連結会計年度の業績は売上高3,232百万円（前年同期比7.0%減）、営業損失は128百万円（前年同期は営業損失12百万円）、経常損失は163百万円（前年同期は経常損失63百万円）、当期純損失187百万円（前年同期は当期純損失760百万円）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### （海外事業）

中国における売上高は1,102百万円（前年同期比20.5%減）、セグメント利益は36百万円（前年同期比15.7%減）となりました。

#### （ダイヤモンド事業）

日本におけるダイヤモンド事業の売上高は143百万円（前年同期比47.7%減）、セグメント損失は19百万円（前年同期はセグメント利益51百万円）となりました。

#### （ダイヤモンド研磨事業）

海外子会社公開型株式会社サハダイヤモンド（ロシア）の売上高は1,890百万円（前年同期比6.4%増）、セグメント損失は13百万円（前年同期はセグメント利益56百万円）となりました。

#### （不動産賃貸事業）

不動産賃貸事業の売上高は97百万円（前年同期比140.1%増）、セグメント利益は9百万円（前年同期はセグメント損失5百万円）となりました。

②今後の見通し

今後の見通しにつきましては、当社グループは収益の向上と企業体質の改善が最大の課題であります。そのためにサハダイヤモンドグループのそれぞれの特徴を打ち出し、業績の改善を図ってまいります。

具体的には、次の事業を推進してまいります。

(海外事業)

当社の海外子会社維真珠寶(上海)有限公司が運営する中国のジュエリー11店舗では集客を強化し、売上高260百万円、卸販売では588百万円を目指します。

(ダイヤモンド事業)

当社の子会社株式会社バージンダイヤモンドは、インターネット及びバージンダイヤモンドショールームを活用し、ブライダルジュエリーを積極的に推進し、売上高75百万円を目指してまいります。

(ダイヤモンド研磨事業)

当社の海外子会社公開型株式会社サハダイヤモンド(ロシア)は原石の確保、自社研磨生産量を増加させ、売上高2,636百万円を販売してまいります。

(不動産賃貸事業)

テナント全室の貸出しを目標として売上高21百万円を目指します。

(トレーディング事業)

商社機能を持つ当社の子会社株式会社サハダイヤモンド・トレーディングにおいては各種商品の販売を行ってまいります。

これらの体制を整え、業績の向上を目指し平成28年3月期の連結業績予想につきましては、売上高は3,580百万円、粗利益の向上が見込める海外子会社維真珠寶(上海)有限公司が運営する中国ジュエリー11店舗での販売強化及び子会社株式会社バージンダイヤモンドのインターネット及びバージンダイヤモンドショールームにおけるブライダルジュエリー等の小売販売を積極的に推進し、営業利益30百万円、経常利益18百万円、当期純損失60百万円となる見通しであります。

(2) 財政状態に関する分析

①資産、負債、純資産の状況に関する分析

当連結会計年度末の総資産は4,005百万円となり、前連結会計年度末と比較して76百万円減少いたしました。

資産、負債及び純資産の状況は次のとおりであります。

(資産の部)

売掛金が51百万円、たな卸資産が328百万円増加したものの、現金及び預金が171百万円減少したこと等により76百万円の減少となりました。

(負債の部)

買掛金が192百万円減少したものの、前受金が523百万円増加したこと等により364百万円の増加となりました。

(純資産の部)

利益剰余金が187百万円、為替換算調整勘定が155百万円減少したこと等により441百万円減少しております。

②キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)の残高は、前連結会計年度末と比較して171百万円減少して164百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動におけるキャッシュ・フロー)

営業活動による資金の減少は163百万円(前年同期は341百万円の減少)となりました。これは主に前受金の増加による増加が839百万円あったものの、たな卸資産の増加による減少が532百万円、仕入債務の減少による減少が205百万円、未収消費税の増加による減少が186百万円あったこと等によるものです。

(投資活動におけるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における投資活動による資金の減少は0百万円(前年同期は14百万円の減少)となりました。

これは主に有形固定資産の取得による支出が1百万円あったこと等によるものです。

(財務活動におけるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における財務活動による資金の減少は10百万円(前年同期は15百万円の減少)となりました。

これは主に短期借入金の純減額が10百万円あったこと等によるものであります。

(3) 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、平成16年3月期より継続的な純損失を計上し、キャッシュ・フロー面でも営業活動によるキャッシュ・フローのマイナスが続いております。

当該状況により、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

連結財務諸表提出会社である当社グループにおいては、当該状況を解消し早期黒字化を図ることが優先課題であり、主に以下に示す施策を積極的に推進してまいります。

①コストダウン施策の実施及び強化

利益率の改善を図るべく、徹底した商品コストの見直しによる原価の削減、人件費の抑制及びその他経費全般についての見直しを行い収益改善を図ってまいります。

②海外事業の強化

海外子会社維真珠宝(上海)有限公司のさらなる店舗における集客を強化するとともに、卸販売も積極的に行ってまいります。

③インターネット及び店舗販売の強化

子会社バージンダイヤモンドは、インターネット販売の強化及びバージンダイヤモンド・ショールームにおける集客に注力するとともにブライダルジュエリーの販売を事業の柱としてまいります。

④ダイヤモンド研磨事業の強化

海外子会社公開型株式会社サハダイヤモンド(ロシア)に最先端の技術と設備及びシステムを導入しております。これにより、ダイヤモンド研磨事業の大幅な技術の向上とコストダウンを図り、生産力と販売力を改善いたします。

当社グループといたしましては、主に以上の施策を実施することにより、利益体質への転換と、事業の資金面での安定化に努めてまいります。

## 2. 経営方針

### (1) 会社の経営の基本方針

当社グループは、「お客様の喜びを自分の喜びとする企業であること」、「自らが、市場を創造できる企業であること」、「社会人として個性豊かな社員を育成すること」を経営理念としています。また、お客様の皆様に満足いく商品を提供することを第一に考え、企業使命の追求、収益面での早期黒字化を目指します。

### (2) 目標とする経営指標

①当社グループは、安定した配当の実施及び収益面における黒字化を図るため、早急に本業における収益基盤の確立を目指します。また、過去の赤字体質からの脱却を図るべく売上総利益の向上を目指し、「1株当たりの純利益」を重要な経営指標ととらえ、併せて「1株当たりの純資産」の向上を目指してまいります。

②当社グループは、長期的な観点から、財務体質の強化充実、今後の事業展開に備えるための内部保留の確保を念頭に入れながら、株主の皆様に対して継続的な安定配当を行うこととし、そのためにも、利益体質への転換を図り、販売シェア拡大に注力してまいります。

### (3) 中長期的な会社の経営戦略

当社グループは、ロシア連邦サハ共和国産のダイヤモンド等を中心とした販売に徹してまいります。

中国においては、ファッションジュエリーの店舗販売及び卸販売を強化し、収益拡大を目指します。

また、当社の海外子会社である公開型株式会社サハダイヤモンド(ロシア)では品質の高い原石を購入し、同社で研磨したダイヤモンドの販売を推進するとともに、日本では当社グループのブランドである「バージンダイヤモンド」の知名度アップと併せ、ブライダルジュエリーの販売を強化をし、さらに求め易さを重視した商品開発も進め販売してまいります。

なお、当社グループは、お客様の皆様に満足いく商品を提供することを第一に考え、収益面における早期黒字定着化を目指します。

### (4) 会社の対処すべき課題

①中国においては、ファッションジュエリーの店舗販売及び卸販売の売上高増加及び利益確保を目指します。

②国内は、エンゲージリング、マリッジリングの販売を強化し、あらゆる施策に取り組み、収益拡大に努めます。

③ロシア連邦サハ共和国における公開型株式会社サハダイヤモンドは、自社で研磨したダイヤモンドの販売拡大を図るとともに、アルロサ社との取引で原石の購入を含め、同社における売上高・粗利益の向上に寄与してまいります。

④収益の向上に努めるため、管理コストの徹底した見直し改善を実施します。

⑤顧客サービスを重視した社員教育に取り組み、活力ある人材を育成します。

⑥J-SOX法に則した内部統制を構築し、コンプライアンス重視の経営改革、経営の透明性を高めるだけでなく、業務効率の改善を行います。

⑦全ての部門の業務遂行状況、法令等の遵守状況を内部監査室及び監査役会が監視し、強固なコーポレート・ガバナンス体制を敷いてまいります。

⑧営業実績管理の徹底を図り、収益目標を必ず達成してまいります。

## 3. 会計基準の選択に関する基本的な考え方

当社グループは、日本基準により連結財務諸表を作成しております。

なお、国際会計基準の適用につきましては、国内外の諸情勢を踏まえ、検討を進めていく方針であります。

## 4. 連結財務諸表

## (1) 連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	335	164
受取手形及び売掛金	466	517
たな卸資産	1,491	1,820
その他	174	303
貸倒引当金	△14	△1
流動資産合計	2,453	2,804
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,541	1,193
減価償却累計額	△102	△136
建物及び構築物(純額)	1,439	1,056
土地	124	105
その他	111	90
減価償却累計額	△55	△58
その他(純額)	56	32
有形固定資産合計	1,620	1,194
無形固定資産		
その他	1	0
無形固定資産合計	1	0
投資その他の資産		
投資有価証券	0	0
固定化営業債権	270	311
その他	11	7
貸倒引当金	△275	△313
投資その他の資産合計	7	6
固定資産合計	1,628	1,201
資産合計	4,081	4,005
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	194	2
短期借入金	299	316
未払法人税等	1	3
前受金	590	1,113
その他	27	42
流動負債合計	1,112	1,478
固定負債		
その他	8	7
固定負債合計	8	7
負債合計	1,120	1,485



(単位:百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当連結会計年度 (平成27年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	100	100
資本剰余金	2,040	2,040
利益剰余金	△334	△522
自己株式	△2	△2
株主資本合計	1,802	1,615
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	63	△91
その他の包括利益累計額合計	63	△91
少数株主持分	1,094	995
純資産合計	2,960	2,519
負債純資産合計	4,081	4,005

(2) 連結損益計算書及び連結包括利益計算書  
(連結損益計算書)

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
売上高	3,477	3,232
売上原価	3,159	3,044
売上総利益又は売上総損失(△)	318	188
販売費及び一般管理費	330	316
営業損失(△)	△12	△128
営業外収益		
受取利息	2	2
為替差益	-	8
貸倒引当金戻入額	16	-
その他	1	4
営業外収益合計	20	15
営業外費用		
支払利息	17	21
為替差損	50	-
貸倒引当金繰入額	-	25
その他	4	2
営業外費用合計	72	50
経常損失(△)	△63	△163
特別利益		
有形固定資産売却益	-	0
特別利益合計	-	0
税金等調整前当期純損失(△)	△67	△163
法人税、住民税及び事業税	9	6
法人税等合計	9	6
少数株主損益調整前当期純損失(△)	△77	△170
少数株主利益	682	16
当期純損失(△)	△760	△187

(連結包括利益計算書)

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
少数株主損益調整前当期純損失(△)	△77	△170
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△16	△270
その他の包括利益合計	△16	△270
包括利益	△94	△441
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	△809	△342
少数株主に係る包括利益	715	△98

## (3) 連結株主資本等変動計算書

前連結会計年度(自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	3,893	1,458	△2,786	△2	2,563
当期変動額					
減資	△3,793	3,793			—
欠損填補		△3,211	3,211		—
当期純損失(△)			△760		△760
自己株式の取得				△0	△0
自己株式の処分			△0	0	0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	△3,793	581	2,451	△0	△760
当期末残高	100	2,040	△334	△2	1,802

	その他の包括利益累計額		少数株主持分	純資産合計
	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	113	113	379	3,055
当期変動額				
減資				—
欠損填補				—
当期純損失(△)				△760
自己株式の取得				△0
自己株式の処分				0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△49	△49	715	666
当期変動額合計	△49	△49	715	△94
当期末残高	63	63	1,094	2,960

当連結会計年度(自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)

(単位:百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	100	2,040	△334	△2	1,802
当期変動額					
当期純損失(△)			△187		△187
自己株式の取得				△0	△0
自己株式の処分		△0		0	0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)					
当期変動額合計	-	△0	△187	△0	△187
当期末残高	100	2,040	△522	△2	1,615

	その他の包括利益累計額		少数株主持分	純資産合計
	為替換算調整勘定	その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	63	63	1,094	2,960
当期変動額				
当期純損失(△)				△187
自己株式の取得				△0
自己株式の処分				0
株主資本以外の項目の当期変動額(純額)	△155	△155	△98	△253
当期変動額合計	△155	△155	△98	△441
当期末残高	△91	△91	995	2,519

## (4) 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位: 百万円)

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純損失(△)	△67	△163
減価償却費	54	66
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△16	25
受取利息及び受取配当金	△2	△2
支払利息	17	21
固定資産売却損益(△は益)	-	△0
固定資産除却損	3	-
為替差損益(△は益)	△7	△0
売上債権の増減額(△は増加)	△367	13
たな卸資産の増減額(△は増加)	△106	△532
前渡金の増減額(△は増加)	107	△3
未払又は未収消費税等の増減額	9	△186
仕入債務の増減額(△は減少)	29	△205
前受金の増減額(△は減少)	75	839
その他の増減額	△48	△8
小計	△317	△135
利息及び配当金の受取額	2	2
利息の支払額	△17	△21
法人税等の支払額	△8	△7
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△341</b>	<b>△163</b>
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△9	△1
貸付金の回収による収入	0	0
投資その他の資産の増減額(△は増加)	△5	-
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△14</b>	<b>△0</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△15	△10
自己株式の売却による収入	0	0
自己株式の取得による支出	△0	△0
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△15</b>	<b>△10</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	24	2
<b>現金及び現金同等物の増減額(△は減少)</b>	<b>△347</b>	<b>△171</b>
現金及び現金同等物の期首残高	683	335
現金及び現金同等物の期末残高	335	164

(5) 連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

当社グループは、当連結累計期間において187百万円の純損失を計上、平成16年3月期より継続的な損失を計上しており、キャッシュ・フロー面でも、営業活動によるキャッシュ・フローのマイナスが続いております。

これにより、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような状況が存在しております。

連結財務諸表提出会社である当社グループは、当該状況を解消すべく事業計画に沿って、収益体質の改善を図るための対応策を講じてまいります。

コストダウン施策の実施及び強化につきましては、利益率の改善を図るべく、徹底した商品コストの見直しによる原価の削減、その他経費全般についての見直しを行い改善してまいります。

また、当社の海外子会社維真珠宝(上海)有限公司のさらなる店舗展開及び集客を強化するとともに、卸販売も積極的に行います。

加えて、当社の子会社バージンダイヤモンドは、新たなブライダルリングのサイトを活用し、バージンダイヤモンド・ショールームに集客してまいります。

なお、ダイヤモンド研磨事業の大幅なコストダウンを図り、生産力と販売力を改善いたします。

当社が財務内容を改善していく方策としては、当社グループの主要各事業(海外事業、ダイヤモンド事業、ダイヤモンド研磨事業、不動産賃貸事業、トレーディング事業)の営業収益の拡大を重視しており、目標を達成できるよう慎重且つ大胆に各事業の収益体質の改善に注力してまいります。

しかしながら、当社グループが属する宝飾品業界は価格競争により企業業績に関する不透明な状況があります。

また、十分な資金確保が安定しないことから、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められます。

なお、連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を連結財務諸表には反映しておりません。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

## (セグメント情報等)

## a. セグメント情報

## 1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループの報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

したがって、当社グループは、「海外事業」、「ダイヤモンド事業」、「ダイヤモンド研磨事業」、「不動産賃貸事業」、「トレーディング事業」の5つを報告セグメントとしております。

「海外事業」は、中国で展開するジュエリーの店舗販売及び卸販売を行っております。

「ダイヤモンド事業」は、日本におけるインターネット並びに店舗によるブライダルジュエリー等の販売を行っております。

「ダイヤモンド研磨事業」は、ロシア産ダイヤモンドの原石及び自社工場で研磨した原石加工販売を行っております。

「不動産賃貸事業」は、本社及びロシアにおいてビルテナントの賃貸を行っております。

「トレーディング事業」は、各種商品の販売を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる事項」における記載と概ね同一であります。

報告セグメントの利益又は損失は、営業利益又は営業損失ベースの数値であります。

セグメント間の内部売上高又は振替高は社内振替価格に基づいております。

## 3. 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度(自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)

(単位: 百万円)

	報告セグメント					合計
	海外事業	ダイヤモンド事業	ダイヤモンド研磨事業	不動産賃貸事業	トレーディング事業	
売上高						
外部顧客への売上高	1,386	274	1,776	40	-	3,477
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	3	-	3
計	1,386	274	1,776	43	-	3,481
セグメント利益又は損失(△)	43	51	56	△5	△0	144
セグメント資産	1,231	361	1,141	1,238	4	3,978
その他の項目						
減価償却費	0	1	23	22	-	48
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	-	-	6	-	-	6



当連結会計年度(自平成26年4月1日至平成27年3月31日)

(単位:百万円)

	報告セグメント					合計
	海外事業	ダイヤモンド事業	ダイヤモンド研磨事業	不動産賃貸事業	トレーディング事業	
売上高						
外部顧客への売上高	1,102	143	1,890	97	-	3,232
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	3	-	3
計	1,102	143	1,890	100	-	3,236
セグメント利益又は損失(△)	36	△19	△13	9	△0	12
セグメント資産	1,233	189	1,454	982	0	3,860
その他の項目						
減価償却費	0	0	19	41	-	61
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	-	-	1	-	-	1

## 4. 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	144	12
本社管理部門及び各報告セグメント間の相殺消去	1	1
全社費用(注)	△157	△142
連結財務諸表の営業損失(△)	△12	△128

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(単位:百万円)

資産	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	3,978	3,860
本社管理部門及び各報告セグメント間の相殺消去	△566	△385
全社資産(注)	670	530
連結財務諸表の資産の合計	4,081	4,005

(注)全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る資産であります。

(単位:百万円)

その他の項目	報告セグメント計		調整額		連結財務諸表計上額	
	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度
減価償却費	48	61	5	4	54	66
有形固定資産及び無形固定資産の増加額(注)	6	1	-	-	6	1

## b. 関連情報

前連結会計年度(自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)

## 1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

## 2. 地域ごとの情報

## (1) 売上高

(単位: 百万円)

日本	アジア	ヨーロッパ	合計
192	3,225	59	3,477

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

## (2) 有形固定資産

(単位: 百万円)

日本	アジア	ヨーロッパ	合計
280	0	1,339	1,620

## 3. 主要な顧客ごとの情報

(単位: 百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
サハダイヤモンド(上海)有限公司	1,236	ダイヤモンド研磨事業
上海欧宝麗実業有限公司	1,201	海外事業
ユーロスターダイヤモンドトレーダーズ有限公司	509	ダイヤモンド研磨事業

当連結会計年度(自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)

## 1. 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

## 2. 地域ごとの情報

## (1) 売上高

(単位: 百万円)

日本	アジア	ヨーロッパ	合計
55	2,687	490	3,232

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

## (2) 有形固定資産

(単位: 百万円)

日本	アジア	ヨーロッパ	合計
267	0	927	1,194

## 3. 主要な顧客ごとの情報

(単位: 百万円)

顧客の名称又は氏名	売上高	関連するセグメント名
サハダイヤモンド(上海)有限公司	1,455	ダイヤモンド研磨事業
上海欧宝麗実業有限公司	959	海外事業
クリスタル生産合同公開型株式会社	350	ダイヤモンド研磨事業

c. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報  
前連結会計年度(自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)  
該当事項はありません。

当連結会計年度(自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)  
該当事項はありません。

d. 報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報  
前連結会計年度(自平成25年4月1日 至平成26年3月31日)  
該当事項はありません。

当連結会計年度(自平成26年4月1日 至平成27年3月31日)  
該当事項はありません。

e. 報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報  
該当事項はありません。

## (1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
1株当たり純資産額	5.60円	4.57円
1株当たり当期純損失金額	2.28円	0.56円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり当期純損失金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成26年4月1日 至 平成27年3月31日)
当期純損失(百万円)	760	187
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る当期純損失(百万円)	760	187
期中平均株式数(株)	333,147,551	333,147,551
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式の概要	—	—

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。